芹沢文学読書会

案内通信
No. 181
2026年8月26日(水)
(令和8年)

大地震(だいじしん)…
豪雨(ごうう)もありて
猛暑(もうしょ)なり
松林庵主人

8 月 便 り

今年の夏は、猛暑(酷暑)が続き熱中症となる人も多く、中々秋の涼しさになりません。熊本において、また大地震が起きて非難も大変です。関東から北国においては豪雨で多くの自動車が動けなくなりました。また、台風が次々に発生し、沖縄や台湾・中国へゆっくりと動いたりもしています。異常気象で世界各地でも猛暑から多くの死者が出ています。これは、地球温暖化への人類の対応が不十分であった結果でしょう。このままでは、22 世紀には人類が地球上に住めなくなることが現実化することを心配しています。

ロシアのプーチンによるウクライナ侵略は続き、トランプのイラン攻撃も中々終わりません。中共の習近平は、軍隊を増強し、台湾を侵略しようとしています……。

元気にお過ごしのことと思います。暑い夏続きますが、読書会にお出掛け下さい。

第 181 回 ・ 芹 沢 文 学 読 書 会 ☞ ❑

①日時; **9 月 13 日 (日)** 午前１０時～１２時［＊平城は２日曜日午前です］

②会場; **大分県立図書館 研修室 No. 5** ［＊平常は研修室№5 です］

③内容; 〔Ⅰ〕芹沢文学に関する話題や情報 10:00～10:10 am 自由に話す。

〔Ⅱ〕**芹沢文学読書会** 10:10～12:00 am ♩ ♪ ♫ ♫

〇テキスト **『人生について 結婚について』芹沢光治良作**(昭和 42 年 5 月 25 日新潮社発行) **第一章若い人々へ** ―断章七篇― **7～29 頁**

「独りで考える習慣」「友情を忘れた寂しい青春」「〝砂漠〟の仲の学生たち」「サラリーマン道への反省」

◇『人生について 結婚について』は昭和 42 年 5 月 25 日に新潮社から発行されました。第一章若い人々へ、第二章結婚について、第三章幸福について、第四章には自伝「私の青春時代」が集録されています。

＝次回は、11 月 8 日(第 2 日曜日)午前の予定です。＝

◎同封資料; 随筆集**『若い河』芹沢光治良他** 昭和 32 年 2 月 5 日 **河出書房発行**) 雑誌〈週刊読売〉に掲載された 4 人の随筆(人生論)の選集です。 **内表紙、目次、あとがき**(亀井勝一郎)、**奥付**。

この随筆集には、芹沢光治良の随筆 10 編が収録されています。**「砂漠」の中の学生たち、友情を忘れた寂しい青春、サラリーマン道への反省、「人口過剰」のため息、天国の創造は夢でない、心に咲く美しい花々、若者を信頼していい、「母」は心に宿っていない、愛する男性とこそ、小国に生きる心構え** です。

＊『人生について 結婚について』には 4 編が収録されています。 **〔同封資料提供者・中村輝子〕**

芹沢文学・大分友の会 ✍ ✉ ☺ ♨

連絡先： 〒872-1651 大分県国東市国東町浜 4765(番地) 小串信正方

☎ ０９７８(７７)０５６５ 郵便振替口座 01970-5-16072/芹沢文学・大分友の会

芥沢文学・大分友の会
会　報　No.180
ふ　じ
令和 8(2026)年 8 月 26 日(水)
編集・文責　小串(おぐし) 信正(のぶまさ)

◎令和 7(2026)年度　芥沢文学・大分友の会　会計報告(2025. 9～2026. 8)　♩ ♪ ♫ ♬

＝会計報告をいたします。御了承下さい。会計責任 **小串信正**・会計監査 **中村輝子**＝

収入の部			**支出の部**		
	前年度繰越	792 円		切手代	13, 930 円
	会費収入	14, 700		文具代	3, 943
	寄付収入	10, 000		コピー代	2, 475
	テキスト代	200			20, 348
		25, 692			

【反省点】　**会計決算　25, 692－20, 348＝5, 344 円**(振替 274＋現金 5070)

①芥沢文学・大分友の会としての芥沢文学読書会を 30 年間継続しました。　地元の会員は 4 名になっています。芥沢文学研究会と兼ねる会員は 9 名です。読書会への参加者が約 3 名にまで減っています。年会費が未納の会員もいます。いつ迄やれるか分かりませんが、何とか継続しています。

②熱心な会員の篤志の寄付で、年会費を 1200 円に維持して来ましたが、**1500 円に値上げしました。** 通信会員として継続してくれている人々もいます。 関係者や記念館などへも会報をお送りしています。今後も、会報を年 6 回発行し、読書会を奇数月に年 6 回継続して行きたいと思います。

○令和 8(2026)年度の年会費の納入をお願いします。振替や持参で。　✌ ✈ ✪ ✡

9 月から新年度になります。年会費の納入をお願いいたします。読書会に参加の方は、9 月の読書会に持参して下さい。他の方は同封の郵便振替払込取扱票にて納入して下さい。

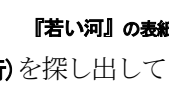
＊振替の年会費納入の確認が出来なくなっているので、同封の年会費入金報告用紙に、入金月日・金額・氏名を書いて、同封の封筒(切手は貼っています)**に入れて、御面倒ですが返送して下さい。**この報告書が届かないと、納入したことが分かりません。

寄付も受入れますが、無理をされないように。芥沢文学研究会の会員の方で、芥沢文学・大分友の会にも入会いただいている方々にも会員の継続をお願いいたします。

【芥沢文学案内 No.125】芥沢光治良の随筆(人生論)『若い河』河出書房発行

芥沢光治良は小説だけでなく、多くの随筆や人生論、そして紀行文も書いています。随筆集としては、『収穫』『文学と人生』『文芸手帖』『幸福への招待』『こころの窓』『人生について　結婚について』『こころの旅』『生きること 書くこと』『こころの広場』『こころの波』等があります。

『芥沢光治良文学館』(全 12 巻)には、エッセイ集として**第 11 巻『文学と人生』と第 12 巻『こころの広場』に集録**されていますが、評論・紀行文・自伝等も収録されています。随筆を読みたい方は、これを入手して下さい。


『若い河』の表紙

新しく中村輝子さんが、**随筆集『若い河』(昭和 32 年 2 月 5 日 河出書房発行)**を探し出してくれました。これは、亀井勝一郎の「あとがき」にあるように、雑誌「週刊読売」に昭和 30 年 9 月 11 日号から同 31 年 8 月 26 日号までに連載された、上原専禄・亀井勝一郎・芥沢光治良・丸岡秀子の 4 名の随筆を河出書房の竹内寛子さんが選んで集録し、単行本(河出新書)として出版されたものです。**芥沢光治良は 10 篇が選ばれて収録されています。**この会報の同封資料に随筆の題を紹介。この河出新書は、現在では入手出来ないと思いますが、紹介しました。